

洋書輸入協会会報

VOL. 6
NO. 4

(通巻60号) 昭和47年4月

理事会報告

3月27日(月)

(一) 入会申込審議。

正会員:

有限会社 国際出版貿易商会

準会員:

ビルボード・パブリケーションズ・インコーポレーテッド

コウケンブックス

賛助会員:

Macmillan Japan Office

British Books Ltd.

Harper & Row

……いずれも承認。

(二) 叙勲の件につき、洋書輸入協会へ諮問があった場合のために、推薦者の審議をする。候補者として、国際書房服部氏、福本書院福本氏を推薦することとする。

(三) その他。

通関問題、レクラム文庫値上げの問題、東大問題等に関する情報交換。

銀行窓口からみた洋書輸入取引

高 瀬 広 行

神田神保町は本屋の町。周辺には、小売店のみならず、出版社、取次、書籍輸出、又は輸入会社が集中している。従って、私の勤務している三菱銀行（三崎町支店）にも、書籍関係の取引先は数多いが、その中から、洋書の輸入取引に限定して、銀行の関係する部分に付き触れてみたい。但し、あくまでも一般的な輸入取引についてであるから、洋書輸入のベテランには、冗長に亘る部分もあらうかと思う。又、洋書輸入取引は、一件当りの輸入金額が小口であるだけに、煩雑な事務を伴うものであり、充分な事務管理を要求されるので、あえて初歩的な事柄であっても書き加えておいた。

(一) バイヤー信用調査

輸入取引においては、シッパーである海外の出版社は当然バイヤーの信用度を事前に調査する。この場合、シッパーが取引銀行を通じて取引銀行のコルレス先である本邦為銀にバイヤーの信用調査を依頼してくることがある。

これに対し、為銀はバイヤーの業種・設立年月・資本金・月商等会社内容を回答することとなるが、中小規模のバイヤーとしては、銀行を通ずる信用調査を予想して、エージェント契約締結等に関するコレボンには、予め取引銀行名を明記しておくのが望ましい。これは、輸入契約成立後、シッパーが取立手形を取組む場合、手形をバイヤーの取引銀行に仕向けるよう手配することともなるので、後日の便宜にもなる。

(二) 輸入承認証

輸入契約が成立すれば、為銀で輸入承認を受けなければならない。（輸入貿易管理令第4条）洋書は自由化品目であるから為銀限りで承認されるが、対外決済は通関後4カ月以内に行なわなければならない（輸入貿易管理令第10条、第3項、大蔵省令62号）。通関後4カ月を超えることが予想される場合は、標準外決済の許可を予め取得しておく必要がある。輸入承認証以下 I/L と略称）については、特に洋書輸入の場合に限ったことではないが、次の点に注意を要する。

(イ) うっかりして、通関後4カ月以内に、対外決済を行わず、標準外決済の許可も取得していなかった場合。これは、送金ベースの取引にありうことで、（取立手形の場合は、為銀でも、チェックしているので防止しうが、送金の場合は、為銀ではチェックしえない）事後的に、標準外決済の許可を取得して決済する以外に、方法がない。

(ロ) I/L の紛失。この場合は、為銀に依頼して再発行の手続きをとるが、既に一部でも、通関や対外決済が行われ

ていたならば、再発行 I/L に裏書を、やり直さなければならない。その際、決済裏書は為銀で行うが、通関裏書は税関に通関時の資料を持参して、裏書やり直しを依頼することとなるので、資料の保存が必要とされる。

その他にも、通関金額と決済金額が喰違って外貨債権回収免除の許可を、取得しなければならないこともあるが、特殊な場合であり、煩雑になるのでここでは省略する。

通関裏書や決済裏書の済んだ使用済 I/L は、事後審査の為、為銀より日銀へ提出されるが、洋書関係の I/L は、少額であっても、件数は非常に多い。従って、洋書輸入業者と取引の多い為銀では、洋書関係の I/L の処理に、かなりの時間と労力を、費やしている。無論、輸入業者の方が、為銀以上に I/L の処理に、追われていると思うが、充分な保存管理をしておかないと後日、日銀事後審査請求の始末に苦労することは、はっきりしているから、輸入業者としては、I/L の事後管理については特に当初よりきちんとした事務取扱いの習慣を作っておくことが望ましい。

(三) 通 関

通関手続は、税関で行われるので、ここでは述べないが、ただ洋書が小包郵便で送られてくる場合、通関手続を忘れぬこと、及び金額が、200 ドル以内であれば送状及び通関済証明書により為銀が、通関裏書をなしうることを付け加えておく。

(四) 輸入代金決済

対外決済は、仕向送金、被仕向代金取立手形、輸入信用状に基づく決済の3種に大別される。

(イ) 仕向送金

送金取引では、為銀は通関後4カ月以内であるかどうかを I/L 面で、確認する程度で殆んど問題は生じない。

I 送金小切手 (D/D)

バイヤーの依頼により、為銀が海外コルレス先銀行宛に振出す一覽払の小切手であり、バイヤーより送付された小切手を、シッパーが支払銀行に提示して、支払を受ける。洋書輸入取引では、この方法が、大半を占めている。

II 郵便送金為替 (M/T)

為銀が郵便により、海外コルレス先銀行に対し、一定金額をバイヤーに支払うよう指図する。送金小切手に比し、紛失の危険を避けられる。

III 電信送金為替 (T/T)

前記 II の海外コルレス先に対する支払指図を、電信により行う。バイヤーは、電信料を負担することになるが、この方法による送金の例は余り多くない。

(ロ) 被仕向代金取立手形

為銀は、海外仕向銀行との関係では取立委任契約の受任者であり、善良な管理者として必要な処理義務を負っているのである。手形の引受、決済がスムーズにゆかない場合に問題が生ずる。

I 一覧手形 (D/D)

一覧払であるから、バイヤーは、手形を提示されれば、直ちに決済すべきである。直ちに決済しない場合は、為銀に遅延の理由や不渡りとする理由を告げ、遅延の場合は何時になったら決済するかの予定を連絡してもらわねばならない。為銀は、これを仕向銀行に通知する必要があるし、いつまでもペンディングにしておくと、最少限海外の仕向銀行に照会状を出す労をわざわざすることになる。

II 期限付手形 (D/A)

Iと同様、手形を提示されても、直ちに引受けぬ場合は、引受拒絶の理由、又は遅延の理由、引受の予定を為銀に連絡してもらわねばならないが、期限付手形では、引受済であっても、期日に決済されるかどうかの、問題が残る。資金繰の都合上、又は、クレームが生じている等の理由により、期日に決済しない場合もできる限り、事前に為銀に連絡することがスムーズな取引を永続させる上で大切な事である。(一覧払、期限付のいずれにしても、決済しない場合は、事前にバイヤーよりシュッパに直接、取立手形の撤回、期限延長、金額変更等を求めるべきで、この交渉がスムーズに行けば、仕向銀行より指図の変更がなされてくるから、為銀としては、不渡通知の打電や支払拒絶証書作成等の手間がはぶけるし、バイヤーも余計な費用を支払わなくてすむ。)

(ハ) 信用状付手形決済

信用状を開設するケースは、他の業界と異って減少にないが、この理由は、一件当りの金額が少く、信用状開設に要する費用と、手数を考えれば、とても引合わないこと及び、信用状開設に際し、為銀より担保差入の要求がなされること(無論、バイヤーの信用により、為銀が無担保で信用状開設に応ずることもある)の、2点であろう。信用状付であれば、為銀がバイヤーに代って対外決済を行うから、あとは、為銀とバイヤー間の問題となる。

なお、信用状付手形決済は、一覧払もあるが殆んどは、輸入金融(外貨ユーザンス)を利用している。(外貨ユーザンス期間は、4カ月以内であるが詳細は省略)

(ニ) 繰返り融資

繰返り融資とは、例えば信用状を開設して4カ月のユーザンスを利用したが、ユーザンス期日迄に、輸入貨物代金が、売却先より回収されないとか、売却先より受取った手形期日が、ユーザンス期日より先であるという場合に、売却先から代金回収迄の期間、為銀が単名で貸出すか又は売却先の手形を割引くことにより、輸入手形を決済することをいうのであるが、洋書輸入取引でこのような繰返り融資が生ずるのは稀である。その理由は、一つの輸入取引の売却先は、必ずしも特定しておらず、しかも、売却先は数多いのが通常であり、代金回収方法(現金回収が主であるが、手形回収もある。)及び、回収時期がまちまちであるか

らである。簡単にいえば、洋書輸入取引は、特定の売却先に対する売繋ぎ取引でないという理由に基づく。従って売上請権の回収が遅れ海外への仕向送金、被仕向代金取立手形決済、信用状付手形の決済などに手持資金が不足し、金融機関からの借人に頼る際は、輸入決済資金ではあるが、一般の繰返り融資の形態をとらず、むしろ在庫資金ないし、支払手形決済資金に類似したものとなる。

(ホ) 為替予約

通貨情勢の不安定な現在、為替予約の果す役割は大きいと考えられるが、洋書輸入業界では、一部の大手を除き、為替予約にさほど関心を持っていないように見受けられる。

為替レートのスライドに変動してある程度顧客への売値も変更されるならば、マージン率にはそう大きくひびかないかもしれないが、為替変動の危険をついに負担しなければならぬような取引のケースでは、直物レートのみならず、先物レートの動向をみながら、為替予約締結を検討してみることが堅実なやり方であると思われる。

(ヘ) 洋書輸入取引の特徴

最後に銀行が、直接関与すべき問題ではないが、私が洋書輸入業界の方々と、仕事上のお付き合いを始めたのは、三崎町支店に転勤となってからの、まだ1年に満たないことであり従って個々の取引慣行についてなぜそのような慣行も形成されたかという取引の実情に精通しているわけではないので、ここでは単に洋書輸入業界の取引慣行が他の輸入業界と異なる特異性を指摘するだけにとどめたい。

(イ) 1ドルが、360円のレートであった頃は、洋書の小売値は1ドル400円(雑誌は450円)で、換算された金額であったが、円切上げに伴う価格について顧客との話合いが、なかなかまとまらないようである。しかし、いくらになろうとも外貨決済レポートとの差額が、輸入業者の荒利となる方式には変りない。(他にトレード・ディスカウントによる取分はいくらかはあるらしいが。)このような価格の決め方は、機械輸入の場合にみられる実費清算方式(輸入業者が一定割合のコミッションをとり、為替リスクは、ユーザー負担)とは異なり、又、生鮮食料品のように、市況によって価格が決定される市況商品の輸入取引とも異なる。いわば、洋書独特の価格決定方式であり、それなりに合理性、非合理性の両面が考えられる。

(ロ) 対外決済は、通関後4カ月以内の後払送金によるものもあるが、取立手形による場合も後払の一種であるシュッパズユーザンス付が多い。前述のように、信用状を開設するのは、むしろ特別なケースに属する。(一般の輸入取引は、信用状取引が主体)前払送金や一覧払取立手形によることができないのは基本的には、次項のような代金回収のずれに、起因すると思われる。

(ハ) 洋書の場合、小売、卸売いずれにしても即金による回収は、ごく小口の取引を除き、例外的で、特に読者層の関係から大学の研究室や図書館へ納入する割合が比較的高く、これが、売掛金として残り、しかも回収時期が不確定である。このようなことは、洋書のみにも特有の問題ではないがやはり一つの特徴としてあげることができる。

(三菱銀行三崎町支店)

エヌグの日曜の朝

中 村 弘 光

エヌグの朝は、ラゴスやイバタンに比較すると割合早く明けてくる。7時を20分位すぎている頃だろうか、あまり暑くならないうちにと思って、市街の東端の高台にある素晴らしく近代的なホテルをでて、ぶらぶらと中心部の方に歩いてみた。ホテルのすぐそばにも、67年から70年のはじめまでつづいた「ビアフラ戦争」の難民の小舎らしいのがみえる。道路わきの水道には、老幼男女がむらがり、顔や体を洗い、また洗たくしている。そのすぐそばに、トタン屋根の小屋の教会もある。

街中に近づくと、日曜日なのに人の動きが多い。数人の子供をつれた夫人たちが走るように歩いていく。そして、小学校の雨天体操場の講堂かと思えるような建物の中に入ってゆく。今日は、日曜、学校は休みのはずだがと思っ、その建物の中を窓からのぞいてみると、そこでは、子供達が一杯あつまって日曜のミサ。そこの入口に立っていた青年は、成人達のミサは8時30分にはじまると教えてくれた。これも、カトリック教会だという。外からみると、十字架もないし、いわゆる教会らしい建物ではない。

このような小さいのではない教会が、どこかにあるだろうと思って、あてずっぽうに街の中心通りオギ・ロードを南に向ってゆく、この州(East Central State)の州立図書館の前を通り、鉄道線路を渡ったところに、大きなカトリック教会があった。教会の前の広場には、大勢の人々が集っている。教会の掲示板を見てみると、ここでは朝の6時、7時、8時にイボ語で行うミサ、9時にラテン語のミサ、そして、夕方には英語のミサと日曜には5回ミサが行われている。

私がそこについたのは8時ちょっと前、才2回目のミサはまだ終わっていない。才2回目のミサは勿論満席、才3回目のミサも一杯。会堂のすみに立ってでもいようと思ったが、若い助祭は、正面の2、3列目の席に案内してくれ

た。

この教会の建物は、他の都市にある教会、例えばラゴスのそれなどに比較しても、ずっと質素なものである。天井もスレートがむきだしのままである。しかし、正面の礼拝堂に、右・左の礼拝堂がついているから、収容している人員は相当多い。およそ1,000人位は入っているだろう。ここで静かに祈っている人々は、成人男子は1割位、御婦人が約3割、その他は若い少年、少女たち。大人も子供も皆着飾っている。老人は殆んどいない。婦人や子供たちが非常に多く感じられる。

満員の聖堂のなかで、カトリックの儀式がオーソドックスな形ですすめられてゆく。ただ、用語はすべてイボ語、司祭、助祭はすべてナイジェリア人。司祭による祈禱、聖さん式。これらはカトリックの形式をそのまま守っているのだろう。司祭、会衆すべてナイジェリア人のなかに、一人の東洋人、しかも異教徒がまぎれこんでいる。しかし、会衆の誰一人として、その男が異邦人であることなどにはまったく気にしていない。

神に祈り、神を讃える歌が静かに歌われてゆく。“アレルヤ……” “ホガンフ、……” という歌のひびき……

まぎれこんだ一東洋人は、これらの会衆の大多数の人々が、父や、兄弟や、夫や、恋人や、また子供たちをビアフラの戦いのなかで失ったのではなかろうかと想像してしまう。これは、はるか東アジアの片すみから、エヌグを訪れた異邦人の感傷だろうか。

この教会自体はビアフラ戦争の被害をうけていず、戦争中もミサはつづけられていたという。恐らく、将来も、同じように神への祈りの言葉がつづけられよう。聖さん式の最中に、何故かよく分らないが、隣の席にいたナイジェリア青年は、やわらかい手を東洋人に差し伸べてきた。

1972年2月13日 エヌグにて(アジア経済研究所員)

準 会 員 紹 介

千代田洋書株式会社

中山氏の堅実な営業方針が実って、設立(昭和44年)3年目にして、顧客筋より「信用出来る店」という評判をとっています。専門は理工学書ですが、中でも材料科学の分野は自他共にゆるす強みをもっています。又公害関係、未来学関係にも進出し、この分野の営業成績の伸びは、この所著しいものがあります。取引先は、70~80%が会社関係ですが、そのほとんどが、日本の代表的有力企業である事が、なんと言っても強みです。

中山氏は、セールス、店売、Representative 等多彩な経験を持つ業界20年のベテラン。現在はまだ数名の規模ですが、内容的に、将来必ず伸びて来る成長書店である事は間違いない様です。(SSD・SN)

準 会 員 紹 介

株式会社 テクニコン ドキュメンツ サービス

昭和42年神保町の一角に事務所を開いた同社は、科学技術各分野のシンポジウムの議事録の輸入販売を専業とする。社名のテクニコンは Technical Conference の頭を複合させた造語で、業務内容を卒直に表わすものである。その基本方針は、(1)他社で取扱わない文献に重点を置き (2)通信販売又はそれに準ずる販売方法に倣する、という二点である。

国際的シンポジウムの数が加速度的に増加している昨今、同社の前途は明るいというべきで、現在年間数千冊の売上げを近い将来一万冊を超すものにしようと、代表者楯研一氏を始めとする数名のスタッフが、文献調査や研究分野別のメーリングリストの作成に励んでいる。又現在同社は下記の日本総代理店でもある。(1) Technivision Service 社(英) — AGARD Publications 全部。(2) Water Resources Publications (米) (3) San Francisco Press (米) — レーザー技術会議事録。

海 外 ニ ュ ー ス

「ピットマンとジーマンスの協定」

イギリスの Pitman Publishing と、ドイツの代表的な電機メーカー Siemens AG の出版部門である Siemens Verlag との間に、ジーマンスの技術・工学書の英語版の出版に関する協定がこのほど成立した。

ピットマン社は、ジーマンス社の既刊のタイトルを販売するとともに、エレクトロニクス、電気工学および関連分野の同社の新刊書を出版することになった。これらの出版物の全世界の販売権は、ピットマン社に与えられた。

(The Bookseller, 1972年3月25日号より)

「ブラッセルのブック・フェア」

第4回ブラッセル国際書籍見本市は、3月10日から3月19日まで開催された。世界各国の900以上の出版社が出品し、116,000人以上の人々が会場を訪れた。これは1971年

よりも14,000人の増加である。ブラッセルの書籍見本市は、歴史は浅いが、年々盛況を見せてきているようだ。

(The Bookseller, 1972年3月25日号より)

「英国2社の決算結果」

(1) コリンズ社

Collins は、このほど1971年度の決算報告を発表したが、これによると、系列会社 Pan を含む同グループの売上高は、1970年の数字£12,825,000から、£15,128,000に増加した。税込み利益額は£1,835,000から£2,404,000へと著増を示した。かなりのコストの増大が、新刊書の実質的値上げによって完全に補填されたことと販売量の実質的増大が、この利益改善につながったものとされている。

(2) ハイネマン社

Heinemann グループの、1971年12月末で終了した年度の結果が発表されたが、またも新記録であった。系列会社相互間の取引を除外したグループの売上高は£5,300,000で、その中輸出は£1,600,000の数字で前年より14.5%の増である。税込み利益額は、£781,388で、前年の£614,-

750 の27%増であった。

(The Bookseller, 1972年3月23日号より)

「アメリカの新出版社3社紹介」

Threshold Books (365 Martha Street, Susanville, Calif. 96103) は、このほど設立されたばかりの会社であるが、4月15日にその最初の小説 “Three Parts Earth” by E. Frederikson を出版してスタートを切った。今後は、フィクション、ノンフィクションの出版を続ける模様。

J. Philip O'Hara, Inc. (20 East Huron, Chicago, Ill 60611) は、Follet Publishing Company の前副社長 J. Philip O'Hara 氏が、自分の名前を冠して設立した新出版社である。成人向のフィクションとノンフィクション、詩、および児童書の出版を行うが、この中には、Poteto Press の名で出される大衆市場向の児童書のシリーズも含まれる。

Orion Press の設立者で Orion/Grossman Books の前編集者 Howard Greenfield 氏が成人向のものの編集長で、この分野の責任者である。有名な詩人であり “Art News” 誌の編集責任者でもある John Ashbury が、詩の部門の編集者となる。Follet 社の児童部門の前共同編集者であった Paula J. Orellana 夫人が児童書の編集者であり、J. Philip O'Hara 氏自身は Poteto Press の本を管轄する。

同社の輸出業務は Henry M. Snyder 社が代表することになっている。

RIR (67 Wilton Road, Westport, Connecticut 06880) は、Redgrave Information Resources Corporation の略称で、主として、参考文献や調査資料のオリジナルあるいは過去の、マイクロフォームのコレクションを出版することになっている。本形式の参考書や学術・専門雑誌や論文も出版する。この新しい出版社の最初のタイトルは5月に発表されることになっている。

Greenwood Press の前副社長で編集長であった Herber C. Cohen 氏が新社の社長で、同じく Greenwood Press のマイクロ出版物の編集次長であった Jeffrey Heynan 氏が副社長兼業務部長に任命されている。

(Publishers Weekly, 1972年3月20日号より)

——紀伊国屋書店提供——

ニュース

- 3月中旬米 Feffer 社の Mr. Donald Traynor 来日。
- 全米 Collier-Macmillan International の Sales Director, Mr. Robert A. Bidgman 来日。
- 全仏 Editions Gallimard の Export Sales Manager, Mr. John Clement 来日。

- 全独 Georg Lingenbrink 社の Export Manager, Mr. Martin Bäuml 来日。
- 3月下旬米 Harper 社の Mr. Robert E. Baensch 来日。
- 全米 Plenum 社の Vice-President, Mr. H. Feldman 来日。
- 全英 Penguin Books Ltd. の Mr. E. I. Savage 来日。
- 4月上旬米 Harcourt 社の Manager, Mr. Burgess Whiteside 及び Times Mirror International-Medical の Managing Director, Mr. M. L. Ponte 来日。
- 4月下旬仏 Hachette 社の Mr. G. Hamon 来日。
- 大垣雅昭氏が新たに米 Lea & Febiger 社および Lippincott 社の代表をされることになりました。事務所は未定。

新入会員のお知らせ

今回次の方々が入会されましたので会員名簿にご記入願います。

準会員

ビルボード・パブリケーションズ・インコーポレーテッド

千代田区猿楽町1-2-1 新日貿ビル
代表者 ヘンリー V・ドレナン氏
電話 294-7621代

旬国際出版貿易商会

千代田区平河町2-16-9
代表者 下出源七氏
電話 265-7871~3

コウケンブック

渋谷区円山町28-5
代表者 石塚真知子氏
電話 461-6782

賛助会員

ハーバー・アンド・ロウ出版社 東京連絡事務所
千代田区神田神保町1-29
代表者 北村雅子氏
電話 291-6343~4

マクミラン・ジャパン・オフィス
千代田区西神田1-3-6
代表者 田所義丸氏
電話 292-8722

ブリテイッシュ・ブックス株式会社
千代田区神田神保町2-2 洋書センタービル
代表者 酒井忠男氏
電話 265-7627

総代理店ご案内

次の通り日本総代理店の案内がございました。お手許の Agent List にご記入願います。

鈴極東書店

☎ 265-7531

Detlev Auvermann KG, Glashütten im Taunus
Nettlan, M., Der Vorfrühling der Anarchie. Ihre
historische Entwicklung von den Anfängen
bis zum Jahre 1864 (Beiträge zur Geschichte
des Sozialismus, Syndikalismus, Anarchismus,
Bd. I). Nachdruck (Berlin 1925) 235 S. 1972.

¥5,800

——, Der Anarchismus von Proudhon zu
Kropotkin. Seine historische Entwicklung in
den Jahren 1859—1880 (Beiträge zur Geschichte
des Sozialismus, Syndikalismus, Anarchismus.
Bd. III). Nachdruck (Berlin 1927). 312 S. 1972.

¥7,300

——, Anarchisten und Sozialrevolutionäre.
Die historische Entwicklung des Anarchismus
in den Jahren 1880—1886 (Beiträge zur
Geschichte des Sozialismus, Syndikalismus,
Anarchismus, Bd. V). Nachdruck (Berlin
1931). 409 S. 1972.

¥9,800

Kraus Reprint, Nendeln

Bismarck, Otto von, Gesammelte Werke. 15
Bände in 18. Nachdruck (Berlin, 1924—1953).
1972.

¥170,400

Zentralantiquariat der Leipzig

Arbeitspolitik. Wochenschrift für wissenschaft-
lichen Sozialismus. Jahrgang 1—4 (alles
Erschienene). 3 Bände Nachdruck (Bremen
1961—1919). Mit einer Einleitung von W.
Eildermann. 1,020 S. & 8 S. 1972. ca. ¥46,000

Handbuch des Sozialismus. Hrsg. von Carl
Stegmann und C. Hugo. Mit Nachwort von
A. Jäger. Nachdruck (Zürich, 1897). IV, 878 S.
1972.

¥14,370

Rheinische Zeitung für Politik, Handel und
Gewerbe. Redaktion: G. Höffken, Rutenberg &
K. Marx. Nachdruck (Köln 1842 1943). 1927.

unbestimmt

Vorwärts! Pariser Signale aus Kunst, Wissenschaft,
Theater, Musik und geselligem Leben. Hrsg.
von A. Ruge, K. Marx, Fr. Engels u. a. Jahrgang
1, Nr. 1—104 und Jahrgang 2, Nr. 1 (alles
Erschienene) in 1 Band. Nachdruck (Paris
1844—1845). 422 S. & 8 S. 1972. ca. ¥31,000

会員の横顔

白鷗洋書

秋山昭夫

「クラーゲ・フライ」

という言葉に耳にされ
たことがあるだらう
か。療養所の診察室。
椅子に坐った患者に医
師は訊ねる。「何か変
ったことは?」。患者
は答える「いえ別に」。



そしてその時医師のペンが白いカルテの上を走って記
す文字、それが「クラーゲ・フライ (主訴なし)」な
のだ。長期の療養生活を送る患者にとって毎回の診察
ごとにそう大した変化が著れるわけではない。しかし彼
等の胸は常にクラーゲ (訴え) に溢れている。たゞ彼
等は知っているのだ。それが医師に向けられるべきも
のではないことを。

思ひつめ働きたりし事はてて

固型の麺を湯にほぐしいる

このような歌を作る秋山さんも、少年時代から病弱で
通常の学校生活をさへ断念された一人である。そして
独学で、大検、慶応の通信教育とスクーリングによる
同大國文卒 (専攻、万葉集) という道を歩んでいる。
夏の2ヶ月を費すスクーリングが4年にわたる。その
為二、三の会社に関係したが、そのうち大雅貿易に入
社、洋書との縁が始まる。

昭和38年白鷗洋書発足。デザイン、ファッション関
係を専門に、洋書業としては最も優雅な部門を生業と
することになる。

代理権にかかはるイタリア信ひた待つと

このひと月の恃めなかりし

昭和10年の東京生れ。歌人として歌誌「潮汐」の編
集同人。協会の文化厚生委員会に属し「短歌同好会」
の発足のため尽力された事は記憶に新しい。

趣味は歌は別格として、他に棋、それから古寺巡礼
とやはり渋いところである。御家族は、と拙筆を弄す
るより、もう一首秋山さんの自作の歌を御紹介するこ
とにしよう。

老父とふたり住みゐて卓のうへに

つもる埃もこころさみしき

(自宅：中野区本町4-8-2)

MACMILLAN ENGLISH COURSE MEC

MEC-1

Listening and Comprehending
By M. H. Combe Martin

テキスト 81p ¥ 480
5号テープ全2巻 ¥4,000

MEC-2

Exercising Spoken English
By M. H. Combe Martin

テキスト 82p ¥ 600
5号テープ全2巻 ¥4,000

MEC-3

To Start You Talking
By J. F. de Freitas

テキスト 206p ¥ 760
5号ロングテープ
全2巻 ¥5,500

MEC-4

Asking Questions
By A. B. Kench

テキスト 63p ¥ 360
テープ 準備中

MEC-5

Active Context English
1 & 2

テキスト(1) ¥ 780
テキスト(2) ¥ 780
テープ 全6巻 ¥15,000

MEC-6

Audio Visual Drills

テキスト・テープ共未定

MEC-7

A Course in Spoken English

Macmillan社(英国)の英語テープ教材が
今すぐに、かつ安くお求めいただけるよ
うになりました。



A THOUSAND YEARS of ENGLISH PRONUNCIATION

by Helge Kokeritz of Yale University

英語発音の発達史レコード!!

LP2枚(テキスト付)

<代表的な内容として下記のものを含む>

¥6,200

- ◎ st. Luke, VII. 2-9, according to the Anglo-Saxon Gospel, the Wyclif-Purvey translation (c. 1390) and the Authorized Version of 1611
- ◎ A Moral Tale in 14th Century Kentish
- ◎ Sir Gawayn and the Green Knight
- ◎ John of Trevisa's Account of the Languages of Britain (1387)
- ◎ Chaucer's Canterbury Tales and Troilus and Criseyde
- ◎ William Caxton's Eneydos (1490)

- ◎ Spenser's Amoretti
- ◎ Shakespeare's Twelfth Night, A Midsummer Night's Dream, King Henry IV, Antony and Cleopatra
- ◎ Marlowe's Tamburlaine and The Jew of Malta
- ◎ Bacon's Essays
- ◎ Lyrics by Jonson, Donne, Herbert, and Herrick
- ◎ Milton's Paradise Lost
- ◎ Pope's The Rape of the Lock

THE CRISIS OF SURVIVAL

生存の危機

●公害問題に取り組むアメリカ社会を知る絶好の書!!

●英語テキストに好適の書!!

PUBLISHED BY

SCOTT, FORESMAN/USA

261 PAGES PAPERBACK.....¥980

「The Crisis of survival(生存の危機)」は、プログレッシブ誌4月号の環境破壊特集号にのった論文を中心に編集したもので、ニューヨークのリンゼイ市長の「都市の苦境」をはじめ公害反対運動の旗手ラルフ・ネーダー、経済学者で未来学・公害問題の権威者ケネス・ボウルディング教授、アース・デー(地球の日)の市民運動のリーダー、デニス・ヘイズ、人口爆発を警告するバウル・エールリッヒ、元外交官ジョージ・ケナンらが執筆している。大学のテキスト向き。

日本販売総代理店

海外教育資料(輸入図・レコード・フィルム他)

伸興通商株式会社

東京都新宿区若葉1-7-1 PHONE 東京(353) 1751代

昭和47年4月 通巻第60号 洋書輸入協会

編集者 寺久保一重

〒103 東京都中央区日本橋江戸橋1-15-5 藍沢ビル302号室 ☎ 271-6901

〒530 関西支部 大阪市北区芝田町28 第一山中ビル ☎ 371-5329